

中国（上海）ソフトハウス活用サービス概要



HEP ハヤトエンタープライズ株式会社
(日本海雅特企画株式会社 上海代表処)

はじめに

現在、下請でシステム受託開発を請け負うソフト開発会社の今後の方策は何かと尋ねると、ほとんどの会社は“日本独自の社会慣習や産業に根ざすソフト開発で差別化していく”と言う指針を多く耳に致します。

自ら海外のソフト開発会社や拠点を活用しようと考えている会社は、まだまだ少ないのが実状のようです。

しかしながら、高騰する国内のソフトウェア人件費とは裏腹に国内景気は回復の兆しを未だ見せておらず企業にとって情報投資は大きな負担となりつつあります。

システム開発における費用の大半は人件費であり、これを低減する事が何より重要である事は皆、認識しているが日本における商慣習の理解が難しいなどを理由に一部の会社を除いて海外ソフト発注に踏み切れておりません。

確かに先駆者となるのは大変な苦勞がありますが、現在はもう既に一步も二歩も踏み出した先輩達が道を切り開いてくれております。

弊社は“お客様に安価なシステム開発を提供”するために、先駆者の会社と協力し新たな生産力を海外に求め、海外ソフトウェア会社の活用を推進致しております。

皆様方にも、ご自身の肌で現状の中国ソフトウェア事情を理解して頂き、新たな事業展開の参考にして頂ければ幸いです。

1、中国ソフトハウスの活用

現在の中国ソフトハウスの特徴としては以下のような傾向が感じられます。
(弊社所感を含んでおりますが御容赦下さい。)

【 特徴 】

◆ 価 格

国際競争力が高い

⇒日本国内価格の3分の1程度

開発単価：20万～40万（人月）

◆ 技術者スキル

- ・日本語対応能力に優れた技術者が比較的多い（他国と比較して）
- ・ポテンシャルが高い（※インドと同等のスキル）
- ・DO系技術知識保有（※汎用機系技術者は少ない）
- ・新技術の吸収が早い

◆ 品 質

私営：整備されている 国営：整備が不十分

※ISO9000取得気運は、高まりつつある

◆ 事業領域他

- ・小規模(30名～60名)の企業が多い
- ・自社ブランドPKGソフト開発、販売／SI事業を手がけた企業が多い。

2、中国ソフトハウス活用の留意点

中国においても、政府機関会社、半官半民会社、民間会社等の様々なタイプの会社が存在し現在も続々と新会社が設立されております。

会社によっては日本の商業慣習をかなり理解して頂ける場合もありますが、仕事を依頼するに当たっては以下の事項を理解した上で付き合いを行う必要があると認識しておくべきです。

◆異なる文化への理解／対応

- コミュニケーションの重要性
チームプレーが不得意

◆開発標準の適用による品質の向上

- 海外発注標準仕様書の適用
品質に関するマニュアル、管理体制等はばらつきがある

◆ノウハウの蓄積による高効率体制の確立

- 業務・開発ノウハウの教育指導が必要

◆試行物件による技術の評価

- 小規模物件による試行からのスタート

3. 中国発注の整理

現在、システム開発過程の作業整理を行った場合、下記表のような作業分類をもとに工数算出を行い、開発を行っていると一般的に考えております。

	工数比率 (%)
要件定義	個別工数算出
概要設計	個別工数算出
基本設計	10
詳細設計	25
製造	35
単体試験	10
結合試験	20
総合試験	個別工数算出
運用指導	個別工数算出

要件定義、概要設計作業によって整理された機能について工数試算

※個別工数算出は場合によっては依頼先にて行う場合が有り開発工数には含まない場合も発生する。

中国のソフトウェア活用においては、要件定義、概要設計等の業務知識を有した上でエンドユーザとの調整が必要な作業及び運用的な試験・導入作業などにおいては困難であると考えており、基本設計～結合テストを作業範囲とし活用を推進する事が一番効果を得られると考えております。

4. 中国ソフトハウス利用における弊社の活用

中国ソフトハウスの活用にあたっては開発スキル、企業慣習、人間性等を把握しビジネスパートナーとして今後の貴社のシステム開発の生産力となり得るか慎重な判断が必要です。

本来、活用には貴社の開発規準を明確に提示し各々のレベルで目的を踏まえつつ活用を推進する必要があると考えております。

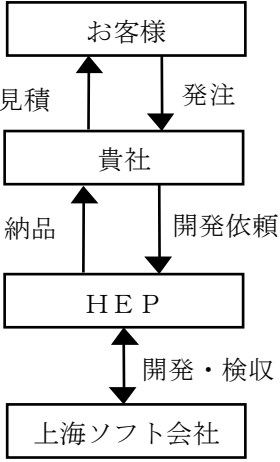
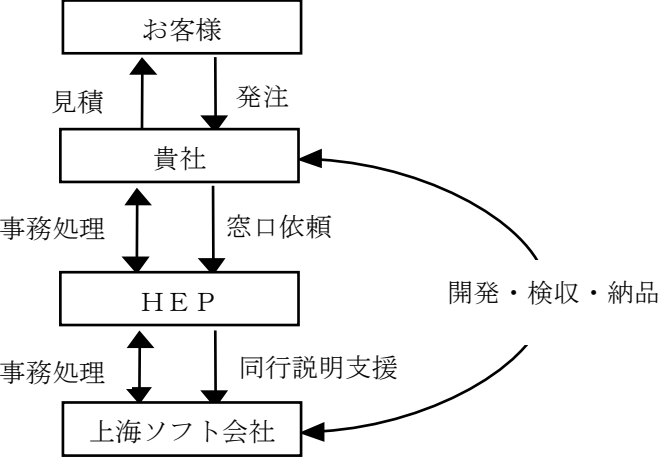
弊社は中国ソフトハウスにおいて開発の標準化、作業のフレーム化を実現致しておりますので弊社を利用いただければ煩わしい整理作業なしに、即効果を得ることが可能です。

HEP介在効果

- ・ HEPが支援形式でサポートし中国ソフトハウスへのソフト発注をスムーズに行う。
- ・ HEPと中国ソフトハウスの協業によりシステム開発要員の作業単価低減を図る。
- ・ HEPに中国発注を前提とした作業を依頼する事で貴社としての中国ソフトハウス活用範囲を明確にする。
- ・ HEPの持っている中国活用ノウハウの習得を図る。

5. 弊社介在発注形態

弊社を活用する場合、現在2パターンの受注形態を考慮致しております。

パターン1	パターン2																		
<p>中国での開発ノウハウのある弊社で中国のソフトハウスを使用することを前提とした発注を行う事で安全性を確保するとともに貴社システム内部でノウハウ習得を行う。</p> <p>※国内生産範囲、中国生産範囲は貴社、弊社両者協議によって決定し下記形態は中国開発範囲についての考え方である。</p>  <p>弊社全面管理での人月単金 (基本設計～結合試験を行うSE工数)</p> <table border="1" data-bbox="385 1168 896 1273"> <thead> <tr> <th>規模</th> <th>円/人月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30人月以下</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> <p>※170時間/月 ※中国現地の単金変動により調整します。 ※30人月以上の場合は会社選定より再度検討要</p>	規模	円/人月	30人月以下	※	<p>開発作業管理は貴社で行うため、作業単金は安いですが、意志疎通が明確にできなければ手戻りが発生する可能性がある。</p> <p>事務処理などポイントで弊社が対応するため別途事務手数料がかかるが全体開発費の抑制が可能である。</p> <p>※このパターンを採用する場合には、現在の弊社と同等の経験とスキルが貴社で必要とされる。</p>  <p>HEP事務窓口手数料 (1案件単位の手数料)</p> <table border="1" data-bbox="1232 1136 1868 1347"> <thead> <tr> <th>規模</th> <th>渡航回数</th> <th>料金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5人月以下</td> <td>1回</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>5～10人月</td> <td>2回</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>10人月以上</td> <td>3回</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1232 1359 1868 1417"> <tr> <td>上海ソフトウェア人月単金(170時間/月)</td> <td>※</td> </tr> </table> <p>※中国現地の月額単金/時間変更時は連動して高騰する。</p>	規模	渡航回数	料金	5人月以下	1回	※	5～10人月	2回	※	10人月以上	3回	※	上海ソフトウェア人月単金(170時間/月)	※
規模	円/人月																		
30人月以下	※																		
規模	渡航回数	料金																	
5人月以下	1回	※																	
5～10人月	2回	※																	
10人月以上	3回	※																	
上海ソフトウェア人月単金(170時間/月)	※																		